

議 事 録

会議名称	第6回小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定アドバイザリーボード
日 時	令和7年3月1日（土） 16時～18時
場 所	市役所4階403会議室
出席者	（順不同） アドバイザー4名 野末 俊比古氏（青山学院大学教育人間科学部長・教授）※オンライン参加 杓谷 茂樹氏（公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科長・教授） 安岡 美佳氏（デンマークロスキレ大学准教授）※オンライン参加 吉田 良晴氏（九九谷代表） 事務局（市長公室未来型図書館づくり推進チーム） 横山、高橋、林、竹内、中山 支援業務受託者（アカデミック・リソース・ガイド株式会社、株式会社日本総合研究所（以下「JV」）） 李、有尾、江頭 ※オンライン参加
次 第	1. 基本計画の策定について 2. 第5回リビングラボ開催報告
配布資料	【資料1】基本計画パブリックコメント公開版 【資料2】第5回リビングラボ開催報告

<会議内容は下記のとおり>

1. 議事

(1) 基本計画の策定について

資料1に基づき、第7章について事務局より説明。

【主な質疑応答・意見交換】

事務局 横山	275ページにこれからのリビングラボの「まち・地域への展開イメージ」を掲載している。基本構想策定時におけるビジョンとコンセプトの位置づけの考え方をベースに、共創のリビングラボにおいても同様の考え方でまとめている。未来型図書館において、様々な体験や活動を皆さんと共に生み出しながら、リビングラボがまちや暮らしを豊かにする原動力となるように活動を広げていきたい。リビングラボの対象範囲は必ずしも未来型図書館に限ったものではないが、その活動の中心を未来型図書館が担っていけるような仕組みを整えていけたらと考えている。
野末氏	第7章自体が市民の皆さんとつくってきたことがよくわかるまとめ方になっていると感じる。ロードマップはA3サイズで挿入されているが、基本計画においてどのような形式で綴じ込む想定か。
J V 李	ロードマップについてはA3サイズの縦型で掲載し、下の部分を折り込むかたちを想定している。
安岡氏	とてもきれいにまとめられている印象があり、良い資料になっていると感じる。各ワークショップで出てきた重要なキーワードやコンセプトは、たくさんあることで見えなくなってしまうということが起こり得る。そうしたキーワードやコンセプトをどのように今後へと繋げていくかについても検討していきたい。全体像がわかるよう、様々なキーワードを俯瞰するような示し方が出来ると市民にとってもわかりやすいのではないかな。もしかすると、ロードマップがその位置づけにもなり得るのかもしれない。
杓谷氏	第7章が入り、良いかたちにまとってきたと感じる。リビングラボというかたちで市民と対話をしながらつくることの価値が、ここによく表れていると感じている。ロードマップは建物をつくるまでの時間軸になっているようだが、未来型図書館は単なる箱づくりのプロジェクトではないと感じており、施設が開館するまでと開館後のあり様をさらに書き込んでいく必要があるだろう。
事務局 中山	施設の開館前から挑戦できることは多くあると感じている。そうした視点を含めて、このロードマップは更新を続けていきたいと考えている。
J V 李	建物をつくるプロセスは時間感覚として一番わかりやすいものである。杓谷教授のご指摘の意識は持ちつつ、多くの人たちに伝えるために、わかりやすい施設整備のスケジュールを良い意味で利用していくという視点もあるかと思

	う。市民の皆さんがリビングラボを通じて体験を積んでいけたら良いのではないかと思います。
吉田氏	今までの取り組みをわかりやすくまとめていただいていると感じる。自分が参加出来ていない回も含め、各回様々なアイデアが出ていたということを知ることが出来た。ロードマップはこれまでとこれからを想像するために重要なものであると思う。ここまでのアイデアを出し合い可能性を広げる段階から、この先は、そのアイデアをどう具現化していくのかという、より責任や緊張感のある重要な段階に入っていく節目のタイミングにあることを感じた。
事務局 中山	吉田氏の発言のとおり、来年度からは事業者選定手続きなど、いよいよこれまで皆さんと描いてきた未来型図書館についてさらなる具現化を図る新たなステージへと進むこととなる。未来型図書館の実現に向けて根本には「わくわく感」を大切に、引き続き皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えている。
野末氏	掲載されている各回のリビングラボのグラフィックレコーディングについても市民の方に作成いただいているものである旨を記載すると良いかと思います。

資料１に基づき、基本計画第１～６章の更新内容についてＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

野末氏	前回のアドバイザリーボードの議論内容を反映いただいていると受け止めている。使用している言葉については、代替する言葉がなければ、このまま使っていくという方針で良いかと思うが、文書内のどこかで、ここで使用している言葉は固定的なものではなく、これからさらに進化させていくものであるという旨を記載いただくと良いのではないか。その他、個別の言葉について、以下４点が気になった点である。 １点目は、２２ページに「『コレクション』概念の導入」という記載があるが、図書館でも博物館でも従来「コレクション」という概念は存在するので、「導入」という表現に違和感がある。ここで言いたいことは図書館と博物館のコレクションを「包括的に扱う」ということかと思うので、その点をもう少し強調しても良いのではないか。 ２点目は、４９ページに「ＡＩ選書」という言葉があり、ＡＩが利用者に本をおすすめしてくれるという意味かと理解しているが、図書館関係者にとって「選書」という言葉は、従来の業務で使用しているため「図書館にどのような本を入れるか」という意味に受け取られてしまう懸念がある。「ＡＩによるおすすめ」という表現でも良いのではないか。 ３点目は、１５ページに基本計画の目的について２点挙げているが、２点目が未来型図書館を定義している内容であり、こここそが非常に重要なのではないかと感じている。「未来型図書館」といった場合に、博物館等の機能も含む複合施設を意味している旨がしっかりと伝わるよう強調した記載にした方が良いだろう。
-----	--

	4点目は、「リビングラボ」についても、活動の名前で使っている場合や、場所や空間として使っている場合もあり、混乱しないような整理も必要であると感じる。
安岡氏	市民の方に届ける努力と工夫を感じる資料となっている。文章だけでなく写真や図表も交えてイメージしやすいかたちが検討されていると感じる。デンマークでは、よく見えるところに事業計画の内容を立て看板で発信するような取り組みがあり、とても良いと感じている。未来型図書館の基本計画においても、パネル展示のようなものがされるとアクセシビリティが上がるのではないかな。 また、野末教授のご指摘のリビングラボの概念は、様々な意味を含み定義が難しい。多様なイメージを含むものであるため、一つに定めてしまうのも危険かと思う。用語集のかたちで、リビングラボはこのように使われることがある、と複数の意味を示す方法もあるのではないかな。
J V 李	リビングラボは第7章でその詳細を記載している。この内容が最後にあることに意味があると考えているが、その前の章で「リビングラボ」という言葉が登場する際に、どのような記載をしていくと良いかについて課題を感じている。
野末氏	重要な概念は用語集で取りまとめるというのは、良いと思う。用語集は巻末ではなく冒頭に配置しても良いのではないかな。
杓谷氏	小松におけるリビングラボも取り組んでいくうちに特有の意味を持っていく部分もあると思う。用語集においても、確定のものではなく、今後書き加えていく余地があると示せると良いのではないかな。 また、全体として複合施設であることをもう少し印象付けたいという思いがある。博物館や展示に関して、今後もう少し具体的な内容を肉付けしていく議論を行っていく必要性を感じている。
吉田氏	これからも変わり得る部分と、ここまでの検討を踏まえ断定していく部分の塩梅は難しいところであると感じる。 基本計画には、テラスやスタジオ、市民交流スペース等のイメージ等が掲載されているが、境のない開放感のある様子が、自由度を感じて非常に良いと思う。
事務局 高橋	基本計画については、今回のとりまとめを踏まえながら完成に向けて作業を進め、3月7日（金）からパブリックコメントを開始していく予定である。本日いただいたご意見を踏まえた修正に加え、施設において、どのように動線が確保されているのか、時間によってどのようにセキュリティが守られているのかについても整理が必要かを感じている。 ゾーニング図等様々な検討結果を示していくことは重要であるという認識がある一方で、それに縛られず民間事業者からのより良い提案をいただきたいと

	考えている。イメージパースについては、テーマ配架や融合等の表現について修正の上、さらにブラッシュアップを図っていきたい。 事業費については、より現実を加味した数字となっているが、物価高騰も踏まえ、今後の市場についても注視していきたいと考えている。 来年度の要求水準書において、この内容をより具体的に検討していくことになるため、引き続きご助言をいただきたい。
事務局 横山	来年度いよいよ事業者選定手続きに入っていくことになる。同時に、リビングラボの体制づくりについても進めていく予定である。 杓谷教授からご提案いただいた子ども学芸員についても、来年度から始動を予定しており、来年度もさらに活動を広げていきたいと考えている。

(2) 第5回リビングラボ開催報告

資料2に基づき、J Vより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

野末氏	リビングラボについては、本開催に加え、オンラインや中学校・高校への出張開催等、非常に積極的な取り組みが行われていると感じている。本開催では、リピーターの方や新規の方も混ざり合い非常に良かったのではないかな。 アドバイザリーボードについては、対面で開催できたら良かったという思いもあるが、オンライン開催であることで、後半は全員の時間を合わせて開催できた点は良かったと感じる。 次年度以降の課題としては、限られた時間での議論になるので、事前に意見を求めたい点を共有しておくなどの工夫も検討できると良いかと思う。
安岡氏	リビングラボの最終回に現地で参加し、より一層皆さんと顔を合わせてお話ししたいと強く感じた。リビングラボにおいては、様々なチャネルを工夫し、一連のプロセスのなかで、新しいものをつくり出しながら進めているあり方が素晴らしいと思う。 市民の方々も、自分なりによく考えられている方が多いと感じる。各回の限られた時間で、自分なりの解釈をした上で自分の言葉で話されているのが素晴らしい。どのようにこのような場が出来上がっているのかは個人的にも分析していきたい。
杓谷氏	小松市民だけではなく、東京や関西等、市外からも参加している方がいらっしゃることにリビングラボのポテンシャルを感じた。ワークでは、時間が無いなかでも意見がたくさん出てきており、もう少し時間があると一体どのようなものが出来上がっていくのだろうかという期待も感じる。
吉田氏	参加して初めて、これがリビングラボであるという実感を持つことが出来た。リビングラボは言葉だけでは掴めないもので、参加を重ねるごとにリビングラボというものを理解していくものであると感じている。どのようなものか

	わからないことで、不安を感じる概念でもあると思うが、参加する度にどのようなものか理解でき、意見を出しても良いということや自分のアイデアが取り入れられていく実感が参加の意義につながっていくものだと思う。リビングラボを通じて、未来型図書館と一緒に創造し、施設が出来上がっても一緒に育んでいきたいと思う。
J V 有尾	基本計画が詳細でボリュームのある内容となっているため、市民向けの入り口として読みやすい内容としてまとめていくこと、リビングラボの取り組みを今後に向けて残していくことを目的として、リビングラボの広報誌の制作を進めている。広報誌にはアドバイザリーボードの紹介も予定しており、アドバイザーの皆様からもメッセージをいただきたく、ご協力をお願いしたい。 また、これまで未来型図書館で検討してきた機能や、施設における体験をわかりやすく表現するという意図で、広報誌の表紙へ掲載するイラスト制作を進めている。複数のイラストカットで表現することで、未来型図書館で想定する多様な体験をビジュアル的にも感じていただけるかたちに出来たらと思っている。

そのほか、事務局より事務連絡等

事務局 中山	アドバイザーの皆様のご協力により、基本計画策定の大詰めを迎えている。本日いただいたご意見やパブリックコメントにおける市民の皆さんからのご意見等を踏まえて完成を目指していく。
-------------------	---

以上